※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　学アート科

教科	学アート	科目	（学）身体表現	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし（授業内でいくつかテキストを使用。都度配布する）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

私たちは誰も、社会の中で生きるうえで、役割を演じている。親と子、兄弟姉妹、友人、クラスメイト、アルバイト先の上司、先輩、同僚、部下。そのそれぞれで、それぞれ違う自分を演じているのだ。この授業では、そんな関係性の網の中で、よりよく、より自分らしく生きていくための第一歩としての、コミュニケーションスキルの獲得と、自己表現力の獲得を目指す。

2　学習の到達目標

① コミュニケーションワーク、スピーチにより人間関係を作り、演劇的な方法論によって相手に伝えるための知識・技能を習得する。
② 共に表現することによって育まれるコミュニケーション力と傾聴力を養う。的確な表現を選択するための思考力・判断力・表現力を養う。
③ 演劇の方法論を用いた、マイム、エチュードなどに主体的に参加し取り組むことにより、自己と他者との関係性の大切さを学ぶ態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	スピーチ等における自己の認識・知識を言語化できるか。非言語表現における表現内容を理解・把握し、活用することができるか。	コミュニケーションゲーム等のルールを理解し、的確な判断ができる。発表することで他者に伝達・理解が到達しているか。 授業中に行う演劇の発表において、自分が表現したいことを的確に表現できるか。	ゲーム等に積極的に参加し、コミュニケーションスキルを上げるための努力をしているか。他者の発表を鑑賞し、理解・咀嚼・反応が的確に行えるか。 周囲の生徒と協力することができるか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	スピーチ	体感（1 分間計測） スピーチ	a: １分の時間内に収まるように、話す内容を組み立てることができる b:他者に届く発表になるよう、他者のほうを見ながら話すことができる c:他者の発表を聞きて理解し、反応することができる	1分が正しく取れているか、スピーチ内容	発表状況	取り組み状況
	コミュニケーション	コミュニケーションゲーム（各種）	a:ルールが理解できる b:自分の番に適切な反応ができる。また、他者の反応を見ることができる c: 特定の人物だけではなく、参加者全員が満足できるように、進行ができる	取り組み状況	取り組み状況	取り組み状況
	発声法	発声法（腹式呼吸・調音・滑舌など）	a: 呼吸・発声のメカニズムを理解し、身につけることができる b:ルールに従って正確に発声できる c:発声法を体得できるように自ら練習をする	発表状況	発表状況	取り組み状況
	発表	テキストを用いた発表	a:テキスト（台本等）を読みこなし、舞台背景や状況を理解する b: 感情を的確に言葉・身体での表現に落とし込み、練習・発表する。発表の立ち位置に注意することができる。 c:チームワークであることを理解し、積極的に参加し、協力できる。他者の発表を鑑賞し、表現の内容を理解し、反応することができる	テキスト記述	発表内容	取り組み状況

※令和４年度以降入学生用

後期	即興表現	即興表現（台本を用いない表現）	a:表現したい内容を理解・把握し、使用できる b:伝えるための的確な表現を選択し、他者に伝わるように練習・表現できる c:集団をまとめ、めざす表現内容を効果的に伝達するように、周囲と協力できる	発表内容	発表状況	取り組み状況
	鑑賞	演劇作品の鑑賞（DVD 等による）	a:作品内容、成立背景を理解する。様々な表現様式を見て、自分たちと役者の相違点を理解する b:表現者の表出するパフォーマンスを受け止め、理解する。演劇作品の内容の感想をまとめ、発表する c: 真摯な鑑賞態度を習得し、鑑賞中に注意点を守ることができる	テキスト記述	発表内容	取り組み状況

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度